

2025
1

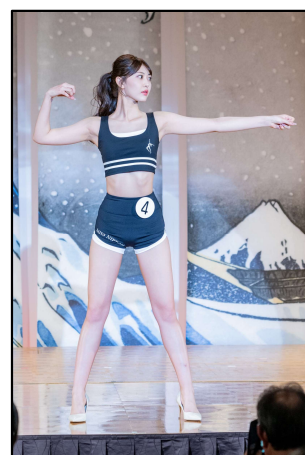
Miss Japan News

ミス日本ニュース

2025年2月10日発行 vol.238
一般社団法人ミス日本協会

ミス日本

2025年、第57代ミス日本が決定しました。

ミス日本グランプリ & ミス着物のW受賞
石川満里奈さん 19歳(フェリス学院大学1年・東京都出身)

伯母に憧れ俳優を目指す



昨年12月に、伯母が日本を代表する歌手の石川さゆりさんであることを公表。幼少のころから伯母が活躍する姿をみて、大きな舞台上で笑顔を届ける存在に憧れ、いつのまにかそれを目指すようになったと話します。

中学2年生の時には「劇場版ほんとうにあった怖い話2020」に出演。役を通じて知る世界の広さに感銘

を受け、俳優の道を歩み始めました。目標であり憧れる存在は長澤まさみさんだと話します。

特技のけん玉では、マイけん玉3つを使い分けています。高校で初段を獲得した弓道では集中力を磨き、和の心の理解と体現に繋げてきました。大好きなのは家族との温泉旅行。お気に入りには石和温泉です。

全ては役者の道を進むための糧。予習と復習、鍛錬を欠かさず研鑽努力していきます。

ミス日本「水の天使」



高坂実優 たかさかみゆう
21歳 大阪府堺市出身
早稲田大学創造理工学部2年

早稲田大学では機械工学の研究に取り組んでいます。幼少期から乗り物が大好きだったことから、動く仕組みに興味を持ち理系の道へ。イギリスのオックスフォード大学に留学中に、電気自動車について学んだことをきっかけに、工学研究、中でもエンジンに打ち込むようになりました。

「機械工学の力で、1人でも多くの方々に未来の生活への安心を届けたい」今日も研究に励みます。

ミス日本みどりの大使



佐塚こころ さつかこころ
19歳 東京都出身
国際基督教大学教養学部1年

生まれは長野県佐久穂町。地元の木造校舎の小中学校で育ってきました。緑の少年団にも所属。高校生の時に、聴覚障害の生徒に出会ったことから手話を勉強。今年の目標はデフリンピック大会にボランティア参加し、聴覚障害や手話への理解を多くの方々に広げることです。将来は障がい

いや言語の壁に囚われないアナウンサーを目指します。

ミス日本「海の日」



高橋彩乃 たかはしあやの
21歳 千葉県流山市出身
中央大学理工学部3年

理系で働く女性の増加を促すため、自らがロールモデルとなることを志向しました。得意の書道は競書大会での多数の受賞経験があります。いまでも研究で行き詰まった時などには筆を取り、心を落ち着かせています。将来は生命科学の研究

を通じて、人々の暮らしを支える仕事をしたいと話し、今日も研究に没頭しています。

準ミス日本



長尾巴菜子 ながおはなこ
20歳 大阪府大阪市出身
東海大学児童教育学部2年

バレエやダンスに打ち込み、スポーツ全般が大好きです。日課のストレッチは欠かせません。自然と教育を結びつけて考えるようになり将来は児童教育の分野に進み、子どもたちに一步を踏み出す勇気を与えられるような教育者を目指しています。憧れの存在は、大阪市立大学

産業分野の名誉教授で父の長尾謙吉。いつか、肩を並べられるような存在になりたいと話します。



1月6日

名古屋木材組合など
愛知県木材関連4団体名刺交換会

新年賀詞交歓会に、華やかな振袖姿で2024みどりの大使の安藤きらりが登場し緑の募金を呼びかけました。戦後に造林された森林の多くが利用期を迎えています。今年も伐って使って植えて育てるサイクルを回しましょう！

1月7日

東京都合板組合連合会
賀詞交歓会にみどりの大使

みどりの大使安藤が振袖姿で賀詞交歓会に登場。急遽壇上でスピーチを求められたところ、能登被災地支援、チェーンソー資格講習や小中学校での林業ゲーム授業など思い出を振り返っていました。たくさんの経験への感謝を胸に挨拶しました。

1月7日

日本科学技術連盟
2025新年賀詞交歓会 司会進行

「海の日」の有馬佳奈が、理系の研究者としてのつながりから日本科学技術連盟の賀詞交歓会に司会として登場しました。同団体に取り組む経営管理や品質管理の重要性は、技術者だからこそ大切だと痛感します。一研究者として感謝を胸に司会進行しました。

1月7日

日本下水道施設業協会 &
東京下水道設備協会賀詞交歓会

2023水の天使の竹田聖彩が、下水道業界の賀詞交歓会に司会として登場しました。久しぶりの登壇に、懐かしい方々との再会を喜びあいます。下水道界の注目ニュースを直接伺いながら、改めて下水道がどれだけ人の生活に欠かせないか、大切さを改めて噛み締めます。一年の幕開けを振り袖姿で彩りました。

1月11日

新宿の街を競争できれいに！
スポGOMI×ミス日本開催

街頭清掃活動・ゴミ拾いにルールを定めて競技とした「スポGOMI」の公式大会を開催。ミス日本受賞者・OG・ファイナリスト、そして協力団体ら総勢30名で西新宿を清掃。たった30分で合計10kg以上のゴミを集めました！

1月16日

令和7年内航海運組合
合同新年賀詞交歓会

日本の物流と人の移動を支える内航海運業界の賀詞交歓会に、司会として海の日有馬が登場しました。島国日本の物流は陸路だけで支えることは不可能であり、特に大量輸送は海運が力を発揮します。歓談では生活を支えてくれている内航海運関係者への感謝の気持ちを胸に交流しておりました。

1月17日

横浜市下水道管理協同組合
新年賀詞交歓会 司会進行

海の日有馬が、横浜市の下水道を支える皆様の賀詞交歓会に司会として登場しました。大学都合でできない水の天使安井のピンチヒッターです。海と水繋がりで、直接生活を支える産業の大切さを感じました。

1月21日

日本マリン事業協会
新年賀詞交歓会 司会進行

海の日有馬が、日本マリン事業協会の賀詞交歓会の司会進行を担当しました。会長挨拶では「船のペーパーライバー」という話がでてグウリとします。これから業界はペーパー資格者向けの操船セミナーやイベントにチカラが入りたいと聞き、有馬も目を輝かせていました。今年の目標は友人を乗せた船で海にでることです。

1月の活動ニュース

1月23,24日

高知から考える下水道の未来
第7回シンポジウム

高知県は南海トラフ地震の問題だけでなく、少子高齢化や人口減少が他県より10年早く顕在化していると言われます。しかし、この状況を逆手にとり「最新防災技術や先駆的技術の実験場」と位置づけ、たくさんの技術呼び込んでいます。シンポジウムの水の天使安井は、南海トラフ対策にすでに能登半島の知見が活かされていることなどを聞き、改めて関係者の努力に敬服しておりました。

1月24日

2025クボタグループ
新年名刺交換会に水の天使

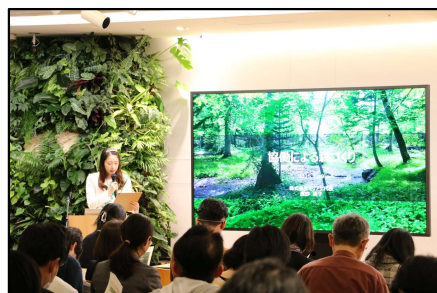
海の日有馬が水環境企業大手のクボタグループの新年名刺交換会に司会出席しました。北尾社長は東大工学部で有馬の先輩。その姿に、自らも頑張ろう！と勇気を貰いました。

1月25日

江戸川区総合レクリエーション
公園オープニングセレモニー

みどりの大使の安藤が、江戸川区の新左近川親水公園のリニューアル式典に司会として登場しました。安藤は「公園は子どもと未来を結ぶ架け橋」と話し、子どもたちが何度も集まりたくなるような公園の完成を共に喜びました。

1月29日

協働による森林づくりを考える
シンポジウム司会に安藤

た。人の数だけ興味を引く工夫が必要なものも合わせて感じる機会となりました。

みどりの大使の安藤が、気候変動対策に欠かせない森林づくりを考えるシンポジウムに司会として登場しました。民間と企業の相互の取り組みが欠かせない中、「どんぐりを2年育てて山に戻す、戻り苗プロジェクト」に大きな感銘を受けておりました。

1月31日

衆議院議長を表敬訪問
全国植樹祭の開催を応援

新しくみどりの大使に選ばれた佐塚ころろが、今年の全国植樹祭が開催される埼玉県知事と衆議院議長による会議を前に表敬を行いました。まだまだ選出直後ということで緊張しながらご挨拶。佐塚はかつて緑の少年団に所属していた経験などをお話。これから森林循環について学び、植樹祭のPRに努めて参ります。

1月の活動

- 6日 愛知県木材団体4団体 新年名刺交換会/安藤
- 7日 東京都合板組合連合会 賀詞交歓会/安藤
日本科学技術連盟 2025新年賀詞交歓会/有馬
日本下水道施設業協会&東京下水道設備協会
賀詞交歓会/23水竹田
- 11-12日 **ファイナリスト向け勉強会 第4期**
- 16日 令和7年内航海運組合合同新年賀詞交歓会/有馬
- 17日 横浜市下水道管理協同組合賀詞交歓会/有馬
- 21日 日本マリン事業協会新年賀詞交歓会/有馬
- 23-24日 高知から発信する下水道の未来 第7回シンポ/安井
- 24日 クボタ 新年賀詞交歓会/有馬
- 25日 江戸川区総合レクリエーション公園OPセレモニー/安藤
- 26日 **前夜祭激励会**
- 27日 **第57回ミス日本コンテスト2025**
- 29日 国土緑化推進機構 企業の森づくりシンポジウム/安藤
- 31日 衆議院議長表敬訪問/ 佐塚

1月のメディア掲載

- 28日 **ミス日本コンテスト開催・結果発表に伴う報道**
スポーツニッポン、日刊スポーツ、地方紙各紙など多数
OriconNews, ACTRESSPRESS、マイナビニュース
毎日キレイ/MANATAN、ビューティパイジエントメディア
関東エンタメウェブ、WWSチャンネル、
Audition & Debut、フィールドキャスターほか
- 25日 **フジテレビ「めざまし8」出演/25GP石川**
- 28日 光文社「女性自身」皇室記事に23海の日稲川
- 30日 **新潮社「週刊新潮」グラビア記事1p/25GP石川**
- 10,17,24日【WEB】FITNESS LOVE ミス日本便り掲載
【冊子】日本下水道協会「下水道協会誌」寄稿/安井
【冊子】林野庁「情報誌林野」寄稿/安藤
【冊子】日本海事広報協会「海上の友」/有馬
【冊子】全日本海員組合会報誌「海員」/有馬



フジテレビ「めざまし8」

ファイナリスト勉強会 第4期

内面の美、外見の美、行動の美
これら3つの美を磨き、将来の夢を叶える実力を身につけます。



ゴミ拾いをスポーツにしてわかったこと／マーケティングの視点から



(3ページ目にも記載)
スポーツとゴミ拾いの融合「スポGOMI」の大会開催の後に、日本スポGOMI連名の馬見塚健一先生からお話を伺います。
街頭清掃も、競技性を付与することで周囲が喜んで参加するスポーツへと変貌します。年間で200大会以上も開催されており、大きく普及してきました。多くの方がどうすれば行動変容を促せるのか。競技性や切磋琢磨することの大事さを学びました。



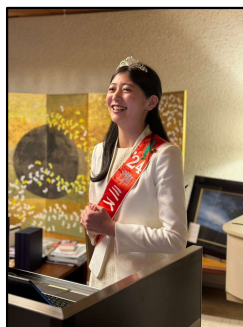
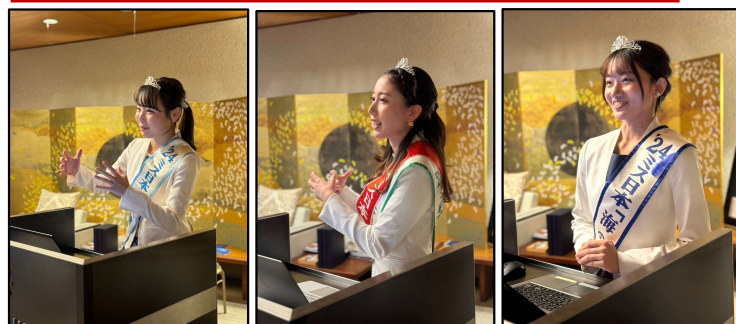
自閉症者支援のAOAart



自閉症者の方々にアートの能力開発を行い、経済活動に参加させることで、自立までこぎつける支援プログラムがAOAartです。昨年にワークショップや発表イベントに参加した2024有馬佳奈も講義に加わり、障がいと普通を分けるものはなにか？を考えていきます。障がいがあるから、と単に手を差し伸べるのではなく、相手の自立を促すことが、真の多様性の在り方だと学びました。



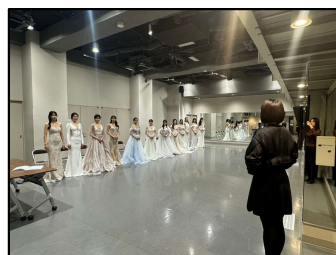
現役ミス日本からのメッセージ



2024ミス日本の現役4名が自らの体験を振り返り、アドバイスをする会を開催。各賞ごとにもし受賞したらどんな出来事があるかを紹介。そして、元出場者ならではの控室のヒントや舞台袖での体験談をお話。ミス日本コンテスト大会当日がよりよいものになるように、全員がお互いのためを考えて活発なやり取りがなされました。



ウォーキングの指導



10月に行ったウォーキング指導の2回目。今回は大会で使うドレスを身にまとい、衣装の良さを引き出すあるき方について練習を重ねていきます。きれいな歩き方は日々の積み重ねと鍛錬によってのみ、たどり着けます。



日本画の世界に触れる 山種美術館



日本画の美術館である山種美術館を訪れ、貸切状態でギャラリートークをしていきます。案内手の竹林先生からは、作品に使われた絵筆や塗料から、時代背景や当時の美観なども解説していただけます。単に美術品だけでなく、日本画を通して日本の情勢を伺い知る楽しさを学びました。静謐な館内で、どっぴりと日本画の魅力を見つけていく、感性を刺激する時間となりました。

今月のカリキュラム

11日

「ゴミ拾いをスポーツにしてわかったこと／マーケティングの視点から」

：日本スポGOMI連盟 馬見塚健一先生

「自閉症者支援のAOAart」：下村雄飛先生

「現役ミス日本からのメッセージ」：2024ミス日本
安井南、安藤きらり、有馬佳奈、石村彩華

12日

「ウォーキング指導」：福村あけみ先生

「日本画の世界にふれる」：山種美術館 竹林佐恵先生